



淀川区まちづくりセンターのスタッフが地域を訪問し、興味を持ったスポットや取り組みを紹介するシリーズ第2弾は、阪急十三駅の西側に位置する神津地域です。



◆聖贖主教会(十三元今里3丁目)

十三筋を北西に進むと右側道路沿いに、ばら窓を持つ白い教会、「聖贖主教会」があります。洋風建築を多数残した建築家ヴォーリズ的设计で、昭和11年に建設されました。同じ敷地内の社会福祉法人博愛社の礼拝堂として、また、地域の教会として今も使われています。

建物には彼の手掛けた装飾が建設当時の姿で残っていて、2階礼拝席では人の背丈程ある色鮮やかなステンドグラスが間近に見られます。



◆RAKURASU LAB&CAFÉ(十三元今里1丁目)

十三公園の北側の住宅街の一角に、眼鏡フレームの看板が目を引くビルがあります。

その建物の1階を、区内で建築士事務所を営む齋藤晴雄さんが改装し、ショールーム型コミュニティカフェといふかたちで土曜日と日曜日に営業しています。



まちセンからのお知らせ
淀川区まちづくりセンターでは地域の様々な取り組みを紹介するまちセン通信を毎月発行中! 区役所1階の地域情報コーナーに設置しておりますのでぜひご覧ください。

ここでは「楽しい暮らしのきっかけづくり」を提供する場所として、ワークショップやセミナー、ギャラリー、料理教室などが開催されています。もちろん、イベントのない時はこだわりの店内でカフェとしても楽しむことができます。



◆第七藝術劇場(十三本町1丁目)

栄町商店街の黄色いボウリングピンが目印のサンポードシティビル6階にミニシアター「第七藝術劇場(通称ナナエイ)」があります。十三地域の商店街や映画ファンが応援している市民出資型の映画館で、昭和の雰囲気漂う内装が印象的な空間になっています。

館内には、スタッフさんがお客様に見て頂きたいと思っている映画のポスターが沢山貼られていて、国、ジャンルを問わず(ドキュメンタリーからインディーズまで)、様々な映画が上映されています。

淀川区まちづくりセンター Facebook 淀川区まちせん FB 検索 地域情報発信中!!



それいけ、まさふみ!

淀川区長 榎 正文

市長の新方針「幼児教育・医療の無償都市大阪」について

吉 村市長は年頭、子どもの教育・医療無償都市大阪をめざすと宣言。子育て・教育支援にしっかりと取り組み、将来を立派に支える世代をつくるのが大切だ、と訴えかけました。平成28年度は、まず**5歳児の教育無償化**。必要な財源は約25億円。市長は、自らの退職金廃止、給与40%削減を打ち出しました。職員もそれをしっかりと受け止め、覚悟を決めなければなりません。

また、子どもの貧困問題が急速に深刻化する中、新設の「子どもの貧困プロジェクトチーム」では市長自ら座長を務めます。家庭の経済事情で子ども時代に十分な教育を受けられず、大人になってからも貧困に陥る「**貧困の連鎖**」を断ち切るために、オール大阪市体制を組みます。

私は先日、ノーベル経済学賞に輝いたヘックマン教授の著書を読みました。その中で、家庭の経済事情が厳しい子どもに投資をすれば、社会保障費の削減等で将来市民全体が負担するコスト

を減少できることを証明していました。苦しい財政、限られた財源。どの政策が効果的かの判断には、エビデンスベース、つまり**科学的根拠に基づいて立案**し、決める、という考え方が重要です。市長は、今回の決断は幼児教育への投資が最も効果的だという科学的根拠に基づくもの、と言及しています。

なぜ無償化かについては、幼児教育が非常に大事だから義務教育同様そのコストは**社会全体で負担**するべき、という考えです。6人にひとりとされる子どもの貧困。これを市民一人ひとりが自分たちの問題としてとらえ、その対策に最優先で取り組むことが必要です。

淀川区では、平成28年度も引き続き**生活困窮家庭の子どもへの学習支援**を実施(拡充)します。支援を必要とする中学生に対し、学習指導やキャリア教育を実施し、学習への意欲を高め、高校進学・卒業率の向上をめざします。